

# パナリング

## 使用目的

パナリングとは噛むトレーニングをするための器具です

適切な咬合力が加わることにより歯は正しい位置に並びます。  
バイオリジカルな治療の基本は食事指導ですが、それでも口腔周囲組織の  
発達が足りない場合にはパナリングを使った噛むトレーニングを指導します。



臼歯部用

前歯部用

## 指導上のポイント

## 使用方法

パナリング付属説明書をご覧ください。

### ▶ トレーニング指導法① 前歯で噛む指導

指導目的：前歯部歯槽突起の育成、歯軸傾斜の改善のサポート

対象：以下が見られる場合①中顔面の発育不足 ②拡大後の歯軸傾斜、離開 ③開咬 ④発育葉の残存

例)開咬・浅い被蓋は、噛むことで閉じていきます



↑前歯部の発育葉が咬耗せずに残っているのは、普段前歯を十分に使っていないということです

例)歯軸傾斜は、スペースがあれば噛むことで整直していきます



### ▶ トレーニング指導法② 前噛みの指導

指導目的：後退した顎位の改善サポート

対象：アングル2級の奥噛み癖が見られる患者

アングル2級の患者さんは、下顎を後退させて  
奥歯だけでの噛む癖(奥噛み)を有することが  
あります。リングを前歯で噛んだときに比べて、  
リングを大臼歯で噛んだとき下顎が大きく後退するよう  
なら、奥噛み癖があることが疑われます。この場合は正しい位置で噛むトレーニングをします。

### ★顎位が変わると顔貌が変わります



大臼歯で噛むと  
下顎が大きく後退します



前歯で噛むと下顎は正しい位置  
(アングル1級)になりました。

### ▶ トレーニング指導法③ 臼歯で噛む指導

指導目的：咀嚼筋の発達、歯根膜活性化のサポート

対象：①咬合力が小さい ②臼歯の被蓋が浅い、歯軸傾向が見られる ③自然保定を期待

咬合力は成人で300N、10歳児で200N以上必要です。[N:ニュートン 1N=0.098kg重]

咬合力が小さい患者さんはこのトレーニングにより咀嚼筋の発達・咬合力の向上を図ります。

## 指導上の注意

- ・過度のトレーニングは避けてください。
  - ・歯・顎関節の痛みやアレルギー症状など、異常が現れた場合には使用を中止してください。
  - ・使用後は流水でよく洗って乾燥させ、風通しの良い場所で保管してください。
  - ・チューブは消耗品です。劣化したら新しいものに交換してください。
- ※パナリングのチューブは、環境ホルモンに対して安全性を考慮した素材組成からなる  
オーラルアカデミーオリジナル製造品です。

